

タイトル…フアニーたい焼きトム34

カシミールカレー

**第一幕：導入**（舞台：東京のたい焼き屋

『たい焼きトム』）

【店内】（カウンターの奥、派手なアメリカ国旗柄のバンダナを巻いたトムが、新作たい焼きを手になやりと笑う）

トム：「お待ちかねの新作だ！その名も…カシミールカレーたい焼き！さあ見てくれ、この黄金色に焼き上がったたい焼きの美しさ！表面はパリッと、端っことはカリカリ、香ばしい生地の中は…とろっとろのカレーがたっぷり！ただのカレーじゃないぞ…これは、カシミールカレーだ！」

（トム、誇らしげにたい焼きを掲げる。しかし、魚住は眉をひそめている）

魚住：「トムさん、これまた攻めましたね……。カレーって、たい焼きに合うんですか？ あんこやカスタードならともかく、カレーって……。どうなんです？」

トム：「挑戦なくして成功なし！カレー好きの日本人なら、きっとこれに夢中になるはず！しかもこれはただのカレーじゃない！インドでも一部のマニアしか知らない、超スパイシーなカシミールカレー！シナモン、クローブ、カルダモン、クミン、ガラムマサラ……。20種類以上のスパイスを使った、まるで味の爆弾だ！」

魚住：「（クンクンと嗅ぎながら）……。確かに、香りはすごい。スパイスの複雑な香りが混ざり合って……。なんだかクセになりそう。」

トム：「さあ、まずは試食だ！」

（トム、大げさに口を開けて食べる。一瞬、目を見開く。すると、汗が噴き出す）

トム：「ホット！！（涙目）ファイヤー！この辛さ！このコク！スパイスの暴力！でも……やめられない！美味い！」

（魚住、半信半疑で一口食べる。目を見開く）

魚住：「……辛っ！舌にピリピリくる！けど……すごく深い味……。カレーの中に、ほんのりトマトの酸味とコクが広がって……これはクセになりますね！」

（そこへ、最初の客、サラリーマン風の男が入店）

サラリーマン：「えっと……普通のあんこたい焼きください。」

トム：「ノンノンノン！今日から君も冒険者だ！カシミールカレーたい焼きをど  
うぞ！」

（強引にカシミールカレーたい焼きを差し出すトム。魚住、慌ててフォロー）

魚住：「す、すみません、もちろんあんこもあります！」

サラリーマン：「いや、まあ……せっかくだし、それ試してみようかな……。」

（サラリーマン、一口食べる。すると、顔が真っ赤になり、むせる）

サラリーマン：「か、辛い！！……けど……  
ウマイ！？なんだこれ！口の中が灼熱地獄なのに、後を引くうまさやが止まらない！  
カレーの旨味がじわじわ広がって、気づけばもう一口いっちゃう……！」

（周りの客が興味を持ち始める）

第二幕：カシミールカレーたい焼き、話題沸騰！（店内はいつもと違う活気に包まれている。行列ができ、トムと魚住はてんてこまいになっている）

【店内】（SNSで話題となり、フードブログガーや激辛マニアたちが押し寄せる）

客1：「うおおお！ヤバい！辛い！でも……クセになる！！」

客2：「うまい！でも舌がピリピリする！……誰か牛乳！！」

（食べた瞬間、汗が噴き出し、悶絶する客たち。興奮して写真を撮り、次々にSNSにアップする）

【場面転換：インド料理研究家グループ登場】（異様なオーラを放つスーツ姿のインド人たちが入店。威厳ある長老風の男が前に立つ）

インド人リーダー：「ワタシたちはカレーを愛する者。聞いたぞ、この店で神聖なるカシミールカレーを扱っていると……！」

魚住：「え、ええと……？」

トム：「いらっしやいませ！カシミールカレーたい焼き、試してくれ！」

（インド人リーダー、一口食べる。その瞬間、彼の目が大きく見開かれる）

インド人リーダー：「……こ、これは……！？」

（他のインド人たちも次々と食べ、静まり返る店内。しかし、一瞬の沈黙の後……）

インド人リーダー：「ウマイ！！！」

（全員が大歓声を上げ、店内が盛り上がる）

**第三幕：カレーマフィア襲来！【店内】**

（翌日。店の前に黒塗りの高級車が止まり、スーツ姿の男たちが降りてくる）

カレーマフィアボス：「貴様……カシミールカレーに手を出したな？」

トム：「おお！新しいお客さんか！？食べてみてくれ！」

（ボス、たい焼きを受け取るが、無表情で握り潰す）

魚住：「ひいいい！！」

カレーマフィアボス：「カレーには伝統がある。このフードは神聖なもの……貴様のようなふざけた商売人が手を出していいものではない！」

（カレーマフィアたちが店を取り囲み、  
威圧する）

トム：「なにに？カレーを愛してるなら、  
食べてみて判断しろよ！」

（トム、挑発するように新しいたい焼き  
を作り始める。生地をパリッと焼き上げ、  
じっくり煮込まれたスパイシーなカレー  
をたっぷり入れ、香ばしい香りを立ち上  
らせる）

カレーマフィアの部下：「（ごくり……）」

ボス：「……食べ。」

（部下が恐る恐る食べる。そして、次の  
瞬間……）

部下：「う、うまいイイイイ！！」

（たちまち悶絶し、昇天したような顔を  
する）



カレーマファイアボス：「なっ……！」

（トム、ドヤ顔）

トム：「カレーは自由だ！たい焼きにだ  
つてなれるんだ！」

（ボス、怒りに震え、部下たちに命じる）

カレーマファイアボス：「この店を潰せ！！」

（突如、たい焼き屋の店内でスパイス爆  
弾が爆発。煙とともに、トムと魚住が吹  
き飛ばされる）

魚住：「ちよっ……トムさん、どうす  
るんですか！？」

トム：「決まってるだろ……俺の最高の  
たい焼きで、奴らを黙らせる！」

（ここから第四幕の異次元空間バトルへ  
と続く）

第四幕：究極の対決（カレーエネルギーをまとったトムVSカレーマフィア）

（店内が異次元空間と化し、カレーの香りが充満する。たい焼きが宙を舞い、火花を散らす。マフィアたちはスパイスの嵐に巻き込まれ、次々と倒れていく）

トム：「カレーは愛！カレーは情熱！俺のたい焼きを食らえ！」

（トム、驚異のスピードでたい焼きを焼き上げ、敵に投げつける。熱々のカシミールカレーがマフィアの口に飛び込み、悶絶）

マフィアボス：「がああ！辛い！熱い！でも……ウマイ！！！」

（マファイアたち、悶絶しながらも次々とたい焼きを食べてしまい、トムの味の虜になる）

**第五幕：クライマックス**（インドの伝説のカレー仙人登場）

（異次元空間にさらにひびが入り、突如空中に光の柱が立ち上る）

カレー仙人：「おぬし、ここまでカレーの力を極めたか……。ならば、最後の試練を受けるがよい！」

（仙人、巨大な黄金のカレーたい焼きを召喚。それはまるで神々の食べ物のように輝いている）

トム：「うおおおお！！」

（トム、黄金のたい焼きを食べ、覚醒。全身がカレー色に輝き、宇宙的な存在へと昇華する）

魚住：「もう意味が分からない……けど、  
なんか感動する……！！」

（店の外、群衆が涙しながらたい焼きを  
食べ、世界中にカシミアールカレーたい焼  
きブームが起こる）

エピローグ（元のたい焼き屋に戻る。カ  
レー騒動は落ち着き、日常に戻る）

魚住：「……結局、何が起こったんです  
か？」

トム：「さあな！でも、お客さんが喜ん  
でくれたら、それでOKだ！」

（トム、いつものように新しいたい焼き  
を考え始める）

トム：「次は……ワサビとチョコレート  
のたい焼きだ！！」

（魚住、ため息をつきつつも笑う）

魚住：「もう、懲りないですねえ……。」

（エンドロールへ）

### 第一幕（約15分）

- 店の紹介、トムと魚住の掛け合い
- カシミールカレーたい焼き誕生
- 魚住の不安、トムの熱弁
- 最初の試食、衝撃の味

### 第二幕（約20分）

- SNSでバズる、客が殺到
- 食レポ、リアクション芸、辛さに悶絶

### 第三幕（約20分）

- インド料理研究家の登場、大絶賛
- 口コミでさらに話題沸騰
- カレーマフィア登場、威圧する

- トムが反論、たい焼きを食わせる
- マファイアの部下が悶絶↓美味すぎて裏切り者に
- ボスの怒り↓店に襲撃指令
- スパイス爆弾炸裂↓異次元バトル突入

#### 第四幕（約 15～20分）

- カレーマファイア VS トム（たい焼きバトル）
- スパイスの力で異次元空間化
- トム、カレーエネルギーをまとい覚醒
- 必殺技「カシミールたい焼き弾」でマファイア崩壊

#### 第五幕（約 15分）

- すべてを受け入れるマファイアボス「これは……芸術だ」
- 和解、マファイアもたい焼き修行へ

- トム 「次はどんなたい焼きを作る？」 ↓魚住のツツコミ
- フリーズフレーム、エンディング